

4月4日：総合政策審議会の流れ

●市民ワークショップの意見のとりまとめにご協力いただきありがとうございました。

施策1～28の意見を取りまとめましたので、ご確認ください。

●4月4日の会議には、こちらの資料をお持ちください。最終確認を全員で行ないます。

●班別で意見を出していただいたものを基に、施策番号の移動や文言の訂正等をさせていただきます。より、計画に意見が反映しやすいように事務局で変更しております。ご意見がある方は会議の中で遠慮なく発言してください。

市民のアイデアを基本計画へ

令和4年9月に市民ワークショップを開催して、市民から248のまちづくり提案がありました。市民の声をしっかり合志市総合計画第3次基本構想第1期基本計画へ反映してもらえるよう、総合政策審議会で検討し、意見を取りまとめました。基本計画策定にあたっては、この意見を十分に考慮してください

合志市総合政策審議会

施策 1 : 市民参画によるまちづくりの推進

224★「誰もが顔見知りの地域へ」事業

夫婦共働きがほとんどとなり、親戚よりも近くの他人の役割が高まっている。地域の交流活動を推進することで、お互いを知り、子供の交流による見守り、災害時の安全確認対応ができる仲の良い地域づくりを行う。また、外国企業の進出に伴う外国人との交流の場も重要と考える。

190●「外国の方との交流」事業

外国企業の進出に伴う外国人とお互いの国の言語を教えあう交流の場を重要視したい。合志市に住む外国人が安心して生活できるだけでなく、日本人の市民も積極的に外国人と交流できる場が必要。

施策 2：行政改革の推進

214★「多言語パンフレット」事業

台湾をはじめ、外国企業の流入に対応するため、様々な言語の看板やパンフレットの設置が重要だと考える。外国に来て、不安な思いをしている方にも住みよい市にしていきたい。外国人の困りごとを把握し、外国人の相談窓口等を設置。

37★「渋滞の解消」事業

時差出勤の推進、テレワークの推進等を行うことで渋滞を解消する。主要道路の拡幅には、お金と時間を要する為、渋滞解消は重要な課題。

203●「高齢者デジタル教室」事業

「合志市の情報発信を全市民に届けやすくする」をコンセプトとし、スマホの使い方やホームページの見方を教える教室を設ける。高専生や近所のスマホショップと連携する。高齢化が進んでいるため、高齢者のできることの幅を広げる施策は重要性が高い。情報を入手するための使い方を学ぶだけでも効果が見込める。また、高齢者のできることが増えれば、脳の活性化、認知症予防、生きがいの確保など、健康維持にも効果が見込める。

施策 3 : 財政の健全化

提案無し

施策 4：子育て支援の充実

★24「子どもの教育・医療の無料化」事業

教育（大学、専門学校）の無料化（一部免除）があれば夢に向かってやりたい事の幅が広がる。（資金が無く夢を諦めている）。3歳以下の保育料無料化の実現。成人までの医療費無料化で、治療の継続につながり、健康面の不安解消。制服のおさがり利用。寄付等で集め、希望者は無償でもらえる。制服費用の負担軽減になる。（洗濯時の2着目にもよい）

●12「公園の再生・改築」事業

各地区の公園ではボール遊びが禁止されているものが多い。駐車場でサッカーをしている小学生を見かける。小さい子ども用と小中学生用に利用者区分を行い、小中学生用にはネットの設置。近隣住民へ迷惑が掛からない対策を実施し、ボール遊びができる公園の整備。

●175「保育士育成」事業

保育士不足を解消するため、市で研修や人材育成をして募集する。発達障がいなどのクラスには保育士を増員配置（1人）しており、受け入れる環境整備で人的環境のゆとりが必要。

●「地域と連携した子育て事業の強化」事業

子育て家庭が子育てと仕事の両立できるよう施設やサービスの充実を図る。

施策5：健康づくりの推進

★147「高齢者健康寿命大作戦」事業

eスポーツは脳トレの効果は大きいが費用がかかるため企業と連携し、安価に利用できる機会を設ける。また、若い世代にも競技人口があるため、高齢者が世代を越えた交流（大会）をすることにより、健康寿命の高いまちづくりにつながる。

●66「歩いて健康ポイントを稼ごう！地域クーポンアプリ」事業

歩くなどの運動を行うとポイントが貯まり、市内の商店等でポイントが買い物に使えるアプリの開発をする。楽しく運動もでき、健康につながる。一方で、高齢者はスマホ（アプリ）の利用が難しいため、利用支援が必要。

★180「防犯・健幸都市」事業

“ウォーキングしながら子ども達の安全を守る”ことをコンセプトとする。公園にあるチェックポイントを通学路に設置すれば、子どもたちの見守りと健康づくりに優れたまちが実現する。

施策 6 : 社会福祉の推進

●232「月1回近所の人と集う」事業

自宅付近から動けない高齢者が増加しているため、付近住民が集まり、情報交換することで、みんなで見守ることができる。各種情報を交換することが常態化することで絆も生まれる。

施策 7 : 高齢者の自立と支援体制の充実

★148「高齢者買い物支援」事業

移動式のスーパーの運営や、送迎支援（スーパーまで一緒に行く）が必要。合志市にはお店が少ないため、衣類、日用品などの調達が高齢者にとって大変。乗り合いタクシー等での送迎支援をすることで、地産地消にも繋がる支援を構築する。

●131「野菜の訪問移動販売」事業

「地産地消のまちづくり」をコンセプトに、合志市で作った農産物を移動販売する。移動が大変な高齢者でも買えるように、地元の小中高生、商工会、婦人会等がサポートする。歩行に不安がある高齢者のために、お隣さんがついでに買って持っていくことで、助け合い、交流の場ができる。農家を継いで頑張っている若者への支援にもつながる。

●「高齢者が住み慣れた地域で社会活動への参加や健康づくりの取組みの機会を図る」事業
老人クラブの活性化を図り、高齢者の相互扶助の力を維持していくことが必要

施策 8 : 障がい者（児）の自立と社会参加の促進

★174「保育園・学校・高齢者（障がい者）サービス合同」事業

合同で交流を図ることで、子どもは昔の知恵を知ることや、障がいが個性だと知ることができる。子ども（障がい児）だけではなく、親も一緒に参加し、交流を深める。障がい者（児）との交流により、少しでも福祉への興味を持ってもらい、介護職が増えることに繋げる。子ども高齢者や障がい者の作った作品でバザーを行い、運営資金に回す。

●165「障がい者との共生」事業

ハンディキャップの有無に関わらず、一緒に地域で暮らせることを目指す保育園、小学校、中学校での支援を目指す。友達が沢山居るから。嬉しいこと、悲しいこと、頑張ったこと等の感情も芽生える。

●168「障がい児を持つ親の交流」事業

障がいを持つ親同士の交流はお互いの助けになる。交流できる場所や機会を設けることにより、子育ての方法、療育、施設利用の他、就労についても可能性が生まれ、障がい児を持つ親や親族が住みやすいまちになる。

施策 9 : 義務教育の充実

★6,194「気軽に入れる自室スペース」事業

図書館で、学習できるスペースがない！不登校や家に居場所がない子どもたちが安心して集える場がない！

- ①図書館に学習できるスペースを設置してほしい
- ②不登校の子の居場所、気軽に子どもたちが学習できる場所を設置してほしい
- ③利用料金を数百円払って、子どもが安心して集える場を設置してほしい

●34「児童・生徒を主導とした学校生活作り」

児童・生徒が主体的に議論を行う場が少ないと感じる。学校において、子どもたちが自ら企画し、問題提起をおこない、グループワークを行って、学校生活の課題や地域の問題など考える授業を行う。

●142「暗い道を安全に」事業

子どもを中心としたまちづくり。街灯を増やし、防犯たすき着用を徹底する。部活終了時刻に合わせて30分程度、店の明かりを点灯してもらい、地域で子どもを育てるまちづくりをめざす。

●213「小中学生の地域向上」事業

市に興味を持つための活動する場が必要。自分たちが生活する地域を子どもたちは知らないことが多い。コロナ禍でイベントは減り、子どもの活動が削減されている。学校の総合的な学習の中で、小中学生が主体となって、ボランティア活動をしたり、地域サロンを訪問したり、市の事業を学ぶことで、地域社会での一員であることの自覚を促す。

施策10：生涯学習の推進

★36「社会に出てから必要なことを教える」事業

医療、お金、税金等に関する知識を学校で教える。専門家を学校に呼ぶ。
知識の不平等を解消したい。（義務教育の総合的な学習で専門家を呼んで教える）

●194「気軽に入れる図書館兼自習スペース」事業

学習スペースがない。自由に中高生が勉強できるスペースが少ない。
子どもが集まれる場所がない。

施策11：生涯スポーツの推進

★11「健康福祉推進」事業

地区によって、スポーツの推進の温度差がある。行政協力員（区長）の会議時に、スポーツ行事を推進する。スポーツや文化で功績を残した人（子ども）たちへの授賞式を行う。

●200「合志市体育祭」事業

市が体育祭を実施し、市民や地区のコミュニケーションを図る。

●43「スポーツゴミ拾い」事業

イベントと兼ねて、ゴミ拾いを推進し、計量を行い競い合って授賞式を行う。

施策12：人権が尊重される社会づくり

★42「全ての人が平等になるまちづくり」事業

外国人との交流をし、外国人差別が起こらるように多文化共生社会をめざす。外国人の人権を守るためにも、外国人専用の窓口が必要。

施策13：歴史・伝統・文化を活かした郷土愛の醸成

★ 190「外国の方との交流」事業

お互いの文化を知る交流会を開催する。まずは、日本語教室に来た外国人と市民が交流する場をつくる。

● 83「合志市の将来の産業の担い手を増やす」事業

合志市在住の子どもたちが地元に戻ってくるようにする。合志市、企業、小中学校と連携する。

施策14：危機管理対策の推進

★「.....」事業

●「.....」事業

●「.....」事業

提案無し

●「.....」事業

施策15：防災対策の推進

★178「防災士の活用」事業

地域における防災士の役割は非常に重要。防災士を育成し、自分たちの身を自分たちで守れるようにする。さらに、防災士の拠点を整備する。

●159「災害グッズ支援」事業

「誰もが自分の身を自分で守れるように」をスローガンとし、グッズを詰めたものをリュックにまとめて支援を行う。

●189「おとなりさんをもっと知ろう」事業

近所の人を知ること、情報を収集でき、防災時の協力体制の構築が図られる。隣近所で助け合う「近助」の考え方の啓発活動を行ない、連携の取れたまちを望みます。

施策16：交通安全対策の推進

★18「交通基盤整備」事業

登校中に危険が少ない道を作る。カーブミラーの設置で視界をよくする。さらに、歩行者分離信号の数を増やす。

●215「地域の安全確認」事業

地域の危険箇所を（事故多発地帯、通学路の不備、歩道の段差及び幅員不足）市、学校、町内会など関係者で点検し地図を作製。安全な通学路が確保され、高齢者も行動しやすいバリアフリー化されたまちにする。

施策17：防犯対策の推進

●142「暗い道を安全に」事業

街灯を増やし、小中学生に防犯たすき着用の徹底化を進める。店と連携し、部活終了後に30分間店の周りの光をつけてもらう。人通りが少ない道は人感センサーの街灯を設置する。

施策18：住環境の充実

★2「新しい公園整備」事業

住民のニーズにあわせた健康器具のある公園にしたり、スケボーや、BMX、アスレチックなどができる、コンセプトをもった公園にする。

●64「空き家を利用した企業応援」事業

農村の空き家には歴史的価値もあるため、雰囲気の良いカフェや店舗をつくれるようにする。住宅地の空き家は市営住宅として活用するなど地域の賑わいを消さないようなまちづくりをする。

施策19：水環境の保全

★「.....」事業

●「.....」事業

提案無し

●「.....」事業

●「.....」事業

施策20：水の安定供給と排水の浄化

★169「須屋浄化センター跡地活用」事業

駅が近いことを活かして車がなくても活用できるキャンプ場、バーベキュー場、サイクルスタンドなどの遊び場に活用し、地域の交流の活性化を目指す。

また、付近に防災拠点がないことから、災害時に活用できる機能も整備してほしい。

●9「下水道引込」事業

合志市は人口流入が激しいため、移住する人へ無償で下水道を引込み、市に新しく住みやすい環境を作る。日本下水道事業団等の外部機関のサポートを活かし、安心して移住してもらえるまちづくりを進めていく。

施策21：廃棄物の抑制とリサイクルの推進

★58「リサイクルゴミのポイント化」事業

各地にゴミのリサイクルステーションを設置して、利用に応じてポイントを与え、ポイントは現金以外のものと交換できるようにする。住民意識の向上、リサイクルゴミ回収率が上がり、環境へのメリットにつながる。
また、リサイクルステーションが設置されると、いつでも回収可能となり、生活の利便性が向上する。
リサイクルステーションの設置については、既存の設備をできる限り活用するなどコストを抑えた実施方法を検討したい。

●81「合志市ゴミ拾いゲーム」事業

公園のごみを拾うために5人1組のチームを作り、ゴミを拾い、重さを競う。公園近くの企業へスポンサーになってもらい、企業と住民の方が一緒になって実施する。地域の企業と住民との交流も生まれ、市内の景観維持の他、市の活性化にもつながる。

施策22：地球温暖化防止対策の推進

39★「植物を植えてもっと自然を」事業

道路や線路の建築で木が伐採された場所に木を植え、家庭でも花を育てることで自然が守られる。住宅を建てるかたに木の苗を配ることで、新築住宅が増えている合志市では特に景観が整う。また、幹線道路沿いに木花を整備することで気持ちが和む景観が得られる。

13●「公共交通機関維持」事業

交通渋滞の解消を目指し、企業と連携して実施する。公共交通を使った人には特典を付与する。ただし、市内を移動できる充実した公共交通網の整備が前提となる。

施策23：計画的な土地利用の推進

57★「森の中で健康と安らぎを感じよう」事業

合志市は都市化が進む地域と、自然が残る農村地区があり、その特性を生かしながらのまちづくりが必要。これからのまちづくりは、環境に配慮すべきだし、白川郷のようなデザインがある美しい街並みを行政指導でつくってほしい。

★21「国営施設活用」事業

合志市には国営施設が多いので、これらを有効活用する。例えば農業公園フェス、菊池恵楓園は公園、農業試験場は貸農地などとして活用する。恵楓園や農業試験場は今から御代志駅の拡大に伴い、いろんな場面で活用することによりまちの活性化にもなる。

★89「市外からの投資促進」事業

市外からの交流人口を増やすため、大規模イベントを開催できる施設を作り、イベントを定期的で開催して、経済活性化を図り、活力あって住みやすいまちづくりをする。

施策24：計画的な道路の整備

16●「交通インフラ整備」事業

4車線化を含めた交通網の整備をして慢性的な渋滞の解消するのはまちづくりを進める上で重要。

施策25：公共交通の充実

●146「交通手段の充実化」事業

「笑顔で外へでかけられる」をスローガンとし、レターバスを増便し、買い物や病院に通いやすくする。医療や買い物等、目的別でレターバスを整備し、パンフレットも増刷する。

●13「公共交通機関維持」事業

公共交通機関を利用して通勤する人には企業と協力して特典を与える。

●14「公共交通機関の再編」事業

自動車交通と公共交通が一体となった交通網の整備の実現。渋滞解消の視点からも、公共交通へのシフトが求められており、公共交通機関の再編は最も重要。

●181「みんなでおでかけ応援」事業

「車がない（運転しない）人も移動できる」をコンセプトとし、運転できる人が運転できない人を応援することで、行きたいときに、行きたい場所へ移動できるような事業の実現。

施策26：農業の振興

85★「合志の農村を楽しもう」事業

合志市の農産物はいろいろあるが、生産現場まで知る機会は少ない。収穫体験だけではなく、楽しみながら合志市の別の魅力を感じてもらおう。自転車にのりながら、見学体験・作って食べるツアーを実現させる。また、長期体験事業を実現させ、就農・移住のきっかけにつなげる。

106●「地域で作られた食材を知る」事業

将来を担う子どもたちに食と農業の繋がりを実感してもらうために、給食時に合志市の食材を作った人々のPR動画を流す。それを家に帰った子どもたちが、家族に話すことで多種多様な農作物が収穫できる合志市の農業の魅力を知り、地産地消にもつなげていく。

222●「農家お手伝い」事業

土日に農家のお手伝いをする市民を集め、後継者不足の農家に対し、市民が少しでも手伝い、農家の減少を防ぐことにつなげる。また、退職後の就農者の確保にもつなげる。農業体験を通して農業への興味、就労につなげる他、仕事マッチングアプリを農業に着目した活用を実施したい。また、市外から合志市に来てもらう仕掛けとして活用したい。

施策27：商工業の振興

128★「マンガ・飲食店【マンガ飯】企画」事業

合志市の食材を使って、マンガ飯をきっかけにインバウンド効果呼び込む。美食の国フランスで今話題になっているのは寿司ではなく、マンガで知った「たこやき、ラーメン、カレー、たまごかけご飯」など。インバウンド効果のみならず、市の食材が海外輸出につながるような事業にする。

37★「渋滞の解消」事業

企業と連携して、時差出勤の推進、テレワークの推進等を行うことで合志市の渋滞を解消する。主要道路の拡幅には、お金と時間を要する為、渋滞解消は重要な課題。

●82「合志市・食フェス」事業

市民が知らない、市内の店舗が多数ある。市内の飲食店が集まって食フェスを開催し、飲食店の認知度・売上向上につなげる。

●199「合志市アピール動画大会」事業

合志市には、市を特別アピールできるものがないように感じる。市内外を問わずPR動画を広く募集し、合志市内の魅力を再発見し観光促進や移住促進につなげ、まちの活性化を図る。

施策28：企業誘致の促進と働く場の確保

★72「企業マッチングアプリ」事業

農業など人手不足に苦しんでいる業種もあるため、アプリから動画配信するなどして、地場産業の魅力を届ける。自分に合った職場の発見をしたい人と、事業者が求める人材のマッチングの仕組みづくりは重要。

★77「工業団地の整備」事業

工業団地の整備を行なう、市の収益増を図り、道路整備や福祉等に回す。雇用創出する。